



感染症対策と私たちの暮らし —SDGs 達成に向けたグローバル・パートナーシップ—

感染症は、ひとたび蔓延すれば多くの人命を奪う身近な脅威です。グローバル化による国境を越えた人・モノの交流・移動の活性化、温暖化などの地球規模課題の影響で、日本においても重篤化する感染症は他人事ではありません。

感染症の予防・対策は、国際社会と連携することが重要であり、なにより私たち市民が感染症の現状や対策を知り、日々の暮らしの中で取り組むことが必要です。国連は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の中で、2030 年までに三大感染症の撲滅をめざし、グローバルなパートナーシップ・協力強化で取り組むことを呼びかけています。このシンポジウムを通じて、私たちになにができるのかを考えます。

日 2017年 10月 8日 (日)

時 14:00 ~ 16:00

(13:30 開場) 事前申込不要・入場無料

場
所

杏林大学

井の頭キャンパス・F棟309号室

JR三鷹駅・吉祥寺駅、京王線調布駅・仙川駅からバス

プログラム

14:00 ~ 14:05 開会ご挨拶 跡見 裕 (杏林大学長)

14:05 ~ 14:10 企画趣旨説明 川村 真理 (杏林大学総合政策学部准教授)

14:10 ~ 15:30 パネルディスカッション

モデレーター：北島 勉 (杏林大学総合政策学部教授)

小林富美恵 (杏林大学医学部教授)

パネリスト：「SDGs の意義および現状」根本 かおる 氏 (国連広報センター所長)

「SDGs 達成に向けた日本政府の取組み—感染症対策を中心に—」

石塚 恵 氏 (外務省国際協力局地球規模課題総括課 / 国際保健政策室首席事務官)

「SDGs と住友化学の取組み—感染症対策を中心に—」

西本 麗 氏 (住友化学株式会社代表取締役専務執行役員)

「マラリア対策の最前線」

狩野 繁之 氏 (国立国際医療研究センター研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長、日本熱帯医学会理事長)

15:30 ~ 16:00 コメント・質疑応答

コメンテーター：神谷 茂 (杏林大学医学部教授)

指定討論者：田中 信弘 (杏林大学総合政策学部教授)



国連広報センター所長

根本 かおる 氏



住友化学㈱代表取締役専務執行役員

西本 麗 氏



国立国際医療研究センター研究所

熱帯医学・マラリア研究部 部長

狩野 繁之 氏

後援：国連広報センター・三鷹市

| パネリスト略歴

根本 かおる（国連広報センター所長）

東京大学法学部卒

テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。WFP国連世界食糧計画広報官、国連UNHCR協会事務局長も歴任。フリー・ジャーナリストを経て2013年8月より現職。著書に『難民鎖国ニッポンのゆくえ - 日本で生きる難民と支える人々の姿を追って』（ポプラ新書）他。

石塚 恵（外務省首席事務官）

静岡県出身。東京大学法学部卒

2004年外務省入省。コロンビア大学国際関係公共政策大学院への留学後、アジア大洋州局大洋州課、国際協力局国別開発協力第3課、内閣府国際平和協力本部事務局、世界銀行日本理事室等での勤務を経て、2016年8月から国際協力局地球規模課題総括課にて持続可能な開発目標（SDGs）等を担当。2017年6月から国際保健政策室併任。

西本 麗（住友化学株式会社 代表取締役専務執行役員／健康・農業関連事業部門統括）

大阪大学経済学部卒

1980年4月に住友化学工業株式会社（当時）に入社。1998年ベラントUSA社の副社長を経て、国際アグロ事業部事業企画部長、農業化学業務室部長を務める。2009年に執行役員、2011年に常務執行役員、2013年に代表取締役に就任し、2015年4月より現職。

2010年よりCropLife Internationalの農業戦略委員会委員（2016年からChair）、2013年より日本農業工業会の副会長、グローバルファンド日本委員会のAdvisory Boardメンバーを務める。2016年4月にロールバック・マラリアの理事として選出され、同年6月にMalaria No More Japan理事にも就任。2017年4月に大阪大学大学院国際公共政策学科招聘教授、同年5月に農業工業会会長に就任。

狩野 繁之

（国立研究開発法人国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長
一般社団法人日本熱帯医学会 理事長）

1986年 群馬大学医学部卒

1991年、同大学大学院医学研究科博士課程（寄生虫学専攻）修了。同大学医学部寄生虫学教室助手、講師、助教授を経て、1998年より現職。併任（現職）としては、1999年～筑波大学連携大学院人間総合科学研究科教授、2014年～ラオス国立パスツール研究所寄生虫学研究室（SATREPSプロジェクト）室長、2015年～フィリピン大学公衆衛生学校客員教授、2016年～長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科客員教授、2016年～認定NPO法人 Malaria No More Japan 理事、2017年～帯広畜産大学原虫病研究センター客員教授。また、2017年からはGlobal Fundの技術審査委員会委員を務めている。

**駐車場等はありません。
徒歩または公共交通機関でご来場ください。**

杏林大学主催 公開シンポジウム

—SDGs達成に向けたグローバルパートナーシップ—

感染症対策と私たちの暮らし